

令和6年度 鹿行保健医療圏 地域・職域連携推進協議会について（報告）

- 1 日 時 令和7年1月30日（木） 午前10時から11時30分
- 2 場 所 潮来保健所 大会議室
- 3 出席者 26名
(学識経験者1名、関係機関2名、職域保健7名、地域保健11名、事務局6名)
- 4 内 容 鹿行保健医療圏地域・職域における住民の健康保持・増進について

(1) 事務局説明

「地域・職域連携推進協議会及び専門部会の方針について」 資料1

- ・昨年6月に花王株式会社鹿島工場と禁煙に関するイベントを共催した。イベント参加者へのアンケート結果によると、喫煙者は全体の約2割で、喫煙の最大の目的はストレス解消という回答が最多であった。
- ・鹿行地域の喫煙率は県、全国と比較しても大幅に上回っており、優先的に取り組むべき健康課題であると考え。また、健康増進法の改正から5年が経過するものの、その内容については十分に周知されておらず、保健所への苦情や相談が絶えない。このような現状を踏まえ、具体的取組を推進していく。
- ・今後は3か年計画を立て取組を推進することし、来年度のリーフレット活用に向けて本協議会にて意見を伺う予定である。

(2) 報告事項

「協会けんぽ茨城支部の健康課題及び健康経営推進について」 資料2

- ・茨城県支部の健診受診者におけるリスク保有率は男女ともに全国平均より高く、特に男性については、代謝リスク及び喫煙率を除き全ての項目においてワースト10位以内である。
- ・鹿行地域の特徴としては、入院医療費が県内で最も高い。また、リスク保有率も入院外医療費及び歯科医療費を除いて茨城支部より高い。
- ・健康づくり推進事業所認定制度における健康宣言事業所は、昨年末で1,712か所に上るが、加入事業所の3%程度であることから今後も制度の推進を図っていきたい。

DIC株式会社鹿島工場 健康経営の取り組みについて

- ・健康経営優良法人(ホワイト500)に7年連続で認定されている。禁煙への取組、高齢化による50代以降の従業員への健康維持が今後の課題と感じている。
- ・鹿島工場では、2026年中の完全禁煙を目指し、喫煙可能時間や喫煙回数を目標として設定している。また、健康イベントや労働衛生講演会の実施の他、食堂にお

いて「ノンフライデー」「減塩デー」を設けるなど健康づくりの取組を推進している。

- ・従来取り組んできたダイバーシティに関する取組から、高齢者への取組にシフトしている傾向がある。ぜひ、皆様から助言等いただきながら今後も取り組んでいきたい。

「専門部会取り組み状況報告」

資料 4

報告者：事務局

- ・資料 4 のとおり。

(3) 協議事項

①受動喫煙防止リーフレットについて

- ・HP 掲載の禁煙外来の情報は最新のものか。
→2024 年 11 月時点の情報が掲載されている。
- ・たばこに関して今年度 28 件の指導を実施したということだが、事業所はどのような反応か。リーフレット配布のみでなく、その次の段階についても考える必要があるのではないか。
→「健康増進法の内容について知らなかった。」「鹿行地域では他にも吸わせている店がある。」など、素直に聞き入れてもらえない ことが多い印象。
- ・飲食店の経営者と一般の喫煙者では、どちらに強く働きかけたいのか。また、喫煙者の推移のグラフを見ると、ほとんど減少していないことが安心感を抱かせるのではないか。
→第一は飲食店の経営者。
- ・全国平均も記載すると良いのではないか。
- ・各市の喫煙に対する取組は具体的にどの程度取り組んでいるのか。
→特定保健指導で喫煙歴等の確認・指導を実施している。
特定保健指導や生活習慣病重症化予防の対象者へ指導を実施している。
特定健診・住民健診で指導や相談を実施している。小中学校の希望校に対してたばこによる害について教育を行っている。
小学 6 年生を対象にがん予防教室を実施している。
健診での個別相談に加え、中学 2 年生を対象にがん教育を行っている。
- ・健康な人が禁煙をしたいというのは減多にないので、一般の人にも分かりやすく禁煙の効果を示し、納得できるようにしてもらったほうが良いのではないか。

②今後の取り組みについて

- ・運動不足も鹿行地域の課題である。かみす防災アリーナは 7 社と法人契約を結ん

でいる。各市にもご検討いただきたい。

③学識経験者からのご意見・感想

過去二年間の協議会において共有した各機関の現状・課題を踏まえて、今年度具体的な対策に踏み出したのは非常に大きな一歩である。しかし、果たしてこのリーフレットを配布したところで、どの程度効果が見込めるのかということが今回の論点かと思う。アンケート結果にもあったように、喫煙の目的がストレス解消なのであれば、運動などそれ以外のストレス解消法を提案するのはどうか。

また、地域と職域で同様のリーフレットを配布することで、家庭内で話題になるようなきっかけづくりに活用しても良いのではないか。